

日本海中部地震から40年

深浦町防災訓練

日本海中部地震から40年となる5月26日に防災訓練を行いました。午前10時00分に緊急一斉放送及び緊急エリアメール伝達と同時に実施。全町あげての訓練には、各小中学校や福祉施設、自治会など97機関・団体が参加し、40年前の日本海中部地震を教訓に、防災への意識を高めました。

この日は、日本海沖を震源とする大地震が発生し、町内全域が震度6弱以上の揺れを観測。町に津波警報が発令され、津波が襲来し追良瀬橋及び吾妻橋が崩壊した事態を想定しました。

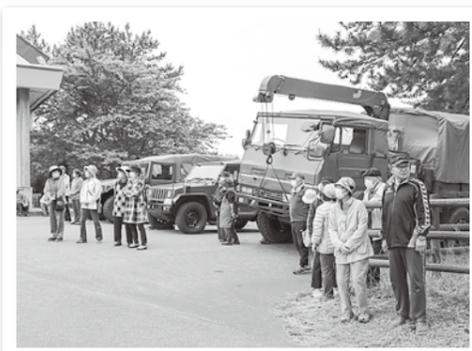


自衛隊に誘導され避難する小学生

地震発生時の放送を受け、参加者は慌てず落ち着いた様子で各避難所へと避難し、経路を確認しました。

また、深浦中学校（岡町）に災害対策本部を設置し、町内13地区に配置された担当職員が、県総合防災情報システムを活用し、スマートフォンで各地区の負傷者や避難者の人数、被害のあった家屋の数など現地の様子を撮影し送信。災害対策本部で受信し、リアルタイムでの被害状況を把握していました。

深浦中学校では今回の防災訓練にあ



深浦中学校へ避難してきた町民

わせて、自衛隊による防災学習会も開催されました。全校生徒は4つのグループに分かれて、心肺蘇生やAEDの使い方、止血などの応急処置、緊急時の担架の作り方、自衛隊で実際に食べられている非常食について学びました。生徒たちは「保健体育で学んでいたこともあつたけど、自衛隊の人たちが実践的に見せてくれたおかげでより活かそうだ」「被災した時に今日学んだことを活かして人を助けられるようにしたい」と感想を語りました。



深浦中学校に設置された災害対策本部

い状況で訓練できたと感じている。災害はいつ発生するかわからない。訓練のための訓練ではなく実効性のある訓練を今後も実施していく必要がある。町民の安全・安心につながるよう職員一同、努力を継続していきたい」と述べました。

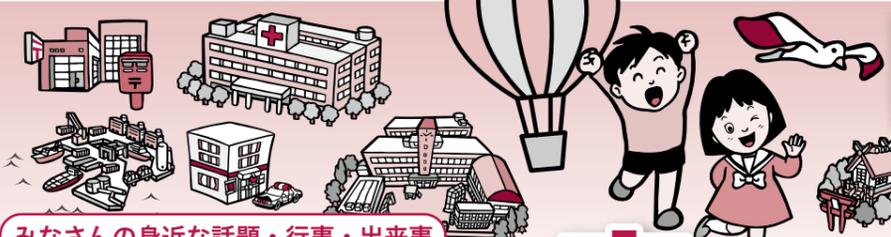
【町の防災対策】

町では、令和5年2月に防災ハザードマップを新たに作成・配布しました。ハザードマップでは、津波による浸水域や大雨による土砂災害警戒区域、各地域の避難所などが掲載されています。災害に備えて住居周辺の避難所などの確認を心がけましょう。町では今後とも、有事の際の備えとなるよう計画的な防災基盤の強化を図ることにしています。



自衛隊員による防災学習会

まちかどウォッチング



みなさんの身近な話題・行事・出来事などの情報をお寄せ下さい。
深浦町総合戦略課 企画調整係
電話 74-2122

秋の収穫を楽しみに

5/10

深浦小学校5年生の13人が総合学習の一環として、バケツ田植えに挑戦しました。

町職員から米の種類や植え方の注意点を教わった後、土の入ったバケツに肥料と水を加え、耳たぶの柔らかさになるまで素手でかき混ぜ、自分だけの田んぼが完成。自分で作った田んぼに苗を4~5本ずつ取り、3か所に植え付けました。子供たちは泥んこになりながら楽しそうに作業に励んでいました。

今回植えた苗は、秋の収穫まで水やりなどのお世話をしながら観察することとしています。



安全運転をお願いします

5/12

春の風が吹く中、春の交通安全運動街頭指導が役場前とJR十二湖駅前の国道2か所で行われました。

町交通安全対策協議会、鯉ヶ沢地区交通安全協会交通指導隊、交通安全母の会の方たちが参加し、シートベルト、チャイルドシートの正しい着用の指導や、子供たちが安心して登下校できるよう、啓発グッズを配りながらドライバーへ安全運転を呼びかけました。



租税教室が行われました

5/16

いわさき小学校の6年生を対象に、町の税務担当職員が講師となって租税教室が行われました。

授業ではO×クイズを交えながら、税金の使いみちや役割・種類、税金の必要性などを学びました。また、アニメで「税金がない世界」について考え、税金は自分たちの生活において様々なところで役に立っていることも学びました。

授業の最後には、実際に1億円の札束（見本）が用意され、手にした児童たちはその重さに驚いていました。



深浦町食生活改善推進員会総会の開催

5/25

食生活の見直しにより生活習慣病を予防しようと、町内各地で活動している町食生活改善推進員の総会及び研修会が、深浦町保健センターで行われました。

総会には19人が出席しました。出席できなかった人を含め今年度は32人が食生活改善推進員として活動します。

総会後は、青森県環境生活部環境政策課の工藤綾子主査を講師に、「食品ロスについて考えよう」と題した研修会が行われ、食品ロスの現状や解決のために普段の生活からできることなどについて学びました。

